

事業所名

放課後等デイサービス くりーむうさぎ・守口

支援プログラム

作成日

令和6年

11月

18日

法人（事業所）理念	株式会社 ブリス（放課後等デイサービス くりーむうさぎ・くりーむうさぎ・守口）：障がい児・保護者の意思や人格を尊重し、利用者の立場に立った適切な放課後等デイサービス事業の療育を提供していく。（児童福祉法第21条5-15-1に準ずる。）						
支援方針	従前の個別支援計画に加えて、令和6年から5領域（「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」）との関連性明確にし、利用児童に即した療育を実施する。日常生活の基本を習得し、集団生活での社会性を身に着けるように支援していく。基本的には利用児の特性・得意分野を伸ばすことにも注力していく。						
営業時間	10時	0分	18時	0分	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	家庭環境・就学状況をアセスメントで十分把握した上で、健康面・生活スタイルの課題を明確にしていく。具体的には、利用児の健康状態チェック・意思表示の確認を行う。身の回りの状況（清潔感）・食事・お片付け等、日常生活に必要な基本的な技能を身に着けること目的とする。健康の維持・リスク管理も徹底していきます。					
	運動・感覚	心身・運動・感覚機能をアセスメントを活用し、集団生活での療育で課題解決・特性伸長を図る。具体的には、姿勢の保持・動作の改善・バランス感覚を養っていく。聴覚・視覚・触覚等、感覚を大切に活用してゲームや遊びを通じて、支援していきます。特に得意分野の伸長に注力していく。					
	認知・行動	日々の認知力・行動パターンから利用児の特徴・課題を把握することで、療育計画に反映させていく。独自のワークシステムを基本に、数量・形・順番・色等の指示を学ぶ。必要な情報の認識・行動・伝達を支援していく。					
	言語 コミュニケーション	言語能力の課題に始まり、コミュニケーション能力は日常生活・社会性を身に着ける為に、最重要課題である。自分の伝いたい事柄を表現し、相手の言葉・意見を理解する。即ち、双方向のやり取りがスタートラインである。相互理解を図ることで、より円滑なコミュニケーション確保が出来る。利用児の様々な課題に根気よく取り組んでいく。具体的にはワークシステム活用を勧める。					
	人間関係 社会性	上記コミュニケーション確保が人間関係・社会性確保に重要である。様々なシチュエーションを体験し学ぶことで自然と身に着けることを目指していく。集団活動に参加するための手順や共通ルールを理解し、仲間づくり・集団活動の楽しさを体感していくように支援する。一人遊びから共同遊びへの誘導をスムーズに行い、活動範囲を広げていく。					
家族支援	保護者・家族の協力なくしては、療育支援は困難である。アセスメントからの支援への反映・保護者のレストタイム確保・家庭内療育サポートを実現し、家庭学校事業所連携を強化する。			移行支援	就学環境への適応・中学高校への進級・就労支援等移行に備えて、ワークシステム等を活用し、より利用児の特性が発揮できる環境への適応を図る。		
地域支援・地域連携	基本的には地域連携を図る。地域・他事業所・関連施設との相互理解を図る前提で取り組むべきである。利用児・保護者の心情・ストレスに十分配慮していく。			職員の質の向上	発達教育等、専門雑誌の定期購読、行政主催のセミナー等を活用して、日々変化していく発達障がいへの理解を深めていく。他事業所・発達支援センターのアドバイス等でブラッシュアップを図る。		
主な行事等	生活歳時（お正月・節分・ひな祭り・お花見・こどもの日・七夕・くりーむ夏祭り・お月見・Xmas）・バレンタイン・ハロウィン ：月単位（水泳教室・クラフト教室・料理教室・おやつ作り・お誕生日会）　：週単位（音楽教室・お絵描き教室・書道教室）						